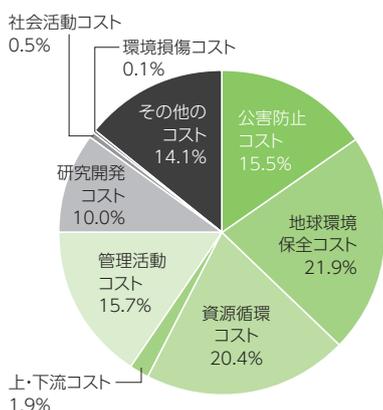


環境会計

当社は、環境保全活動に要したコストやその効果を環境会計として把握し、企業経営に生かしています。

2017年度の環境会計の分類と実績

当社では2000年度より環境会計を導入し、環境省の「環境会計ガイドライン」(2005年度版)に準拠し、右表9項目の分類でデータ集計を実施しています。当社としての一定の基準を設けて算出した結果、2017年度における環境支出は総額で8億8,940万円となりました。その内訳は右表の通りですが、各種環境保全活動の見直しにより、省エネルギーコストと資源循環コストが前年度より増加し、研究開発コストと公害防止コストが減少しました。



2017年度環境保全コスト

(単位: 百万円/年)

コスト分類	主な内容	2016年度実績金額*	2017年度実績金額*
①公害防止コスト	排水処理設備や集塵機の維持管理費用、大気・水質・騒音などの測定監視費用、その他公害防止に要する費用	148.1	137.9
②地球環境保全コスト	工場内の緑地保全活動費用、省エネルギー対策費用、温暖化防止費用など	165.6	194.8
③資源循環コスト	廃棄物処理、ゼロエミッション対策費用、事業所内リサイクル費用など	156.0	181.1
④上・下流コスト	当社の生産活動にともない、購入先や取引先などで発生する環境負荷を抑制するための費用(グリーン購入、製品リサイクル、梱包材削減費用など)	23.2	16.8
⑤管理活動コスト	廃棄物マニフェストの管理費用、ISO14001維持・更新審査費用およびISO14001事務局の人件費、行政への各種届出のための費用など	117.9	139.8
⑥研究開発コスト	環境負荷低減のための研究や、環境負荷低減に貢献する製品開発のための費用など	146.2	88.7
⑦社会活動コスト	社会貢献活動を実施するための費用など(周辺地域・河川の清掃奉仕活動)	6.5	4.1
⑧環境損傷コスト	周辺の環境損傷を修復するための費用など	0.6	0.7
⑨その他のコスト	上記以外の環境保全のための費用(PCB廃棄物処理対応を含む)	14.4	125.4
合計		778.4	889.4

*実績金額: 「環境投資」および「環境保全」に関する金額を合計したもの



2017年度環境保全コスト **8億8,940万円**

2017年度の投資効果の分類と実績

2017年度の実績は下表の通りです。廃棄物の再資源化と有価物化の推進により、廃棄物物理立量は2010年度以降、低水準を維持しています。エネルギー・CO₂原単位と廃棄物物理立量は前年度より減少しましたが、廃棄物再資源化量は、事業活動の拡

大に伴い増加しました。また廃棄物処理費用原単位は、委託業者の単価上昇により増加しました。今後も投資効果が十分に得られるように継続的改善を続けていきます。

2017年度投資効果実績

	物質効果 ^{※1}			経済効果 ^{※2}			評価
	2016年度実績	2017年度実績	効果	2016年度実績	2017年度実績	効果	
エネルギー使用原単位(GJ/百万円) ^{※3}	10.30	10.17	△ 0.12	-	-	-	○
CO ₂ 原単位(トンC/百万円) ^{※3}	0.116	0.114	△ 0.002	-	-	-	○
廃棄物物理立量(トン/年)	6.0	5.7	△ 0.3	-	-	-	○
廃棄物再資源化量(トン/年)	20,948	27,351	6,403	-	-	-	○
エネルギーおよび水費用原単位(円/千円) ^{※3}	-	-	-	14.8	14.9	0.1	○
廃棄物処理費用原単位(円/千円) ^{※3}	-	-	-	0.6	0.7	0.1	× ^{※4}

※1 物質効果: 環境負荷物質の削減など ※2 経済効果: エネルギー・廃棄物コストの削減など ※3 原単位: 売上高に対する数値

※4 廃棄物処理単価および運搬単価の上昇による